

令和2年度第1回吹田市ケアネット実務者懇話会での意見

令和2年度第1回吹田市ケアネット実務者懇話会（令和3年2月4日開催）

意見交換

（1）コロナ禍における各機関の現状について

（以下、上記の項目にて各機関より利用者や他機関との連携方法に関する意見を抜粋）

医師会：コロナ禍において、他の疾患での入院が大変になっていると感じる。

各病院協力の下、発熱患者に対して速やかにPCR検査は実施できている。

歯科医師会：1月の緊急事態宣言では、乳幼児等の健診も感染対策をして実施している。

薬剤師会：電話受診患者の対応が増加。郵送や配達後、オンライン服薬指導をしている。

介護保険サービス事業所：

- ・入院先の病院で家族の手技指導が十分にできずに退院している。
- ・新規の場合でも支援者が本人に会えないまま退院されることもある。
- ・施設では、オンライン面会で対応している。

医療機関：

- ・外出・外泊が禁止なので、退院前の試験的外出・外泊ができず、段階を踏めずに直接家に帰り支障がでている。家族が手技の練習ができない、リハビリの様子が全く見ることができないまま在宅に向けての話し合いをしないといけない。
- ・家族とは電話だけになるので病院側とコミュニケーションがとりにくく、通常のような退院支援はできていない。本人、家族には難しいことを強いていると感じる。
- ・画像でのリハビリ様子の確認やオンラインでのコミュニケーションを工夫している。
- ・面会は全面的に禁止している。
- ・多くの人が集まったカンファレンスや訪問調査もできていない。
- ・関係機関には書面、口頭でできる限りの情報提供を行ない、転院調整も行っている。ターミナル期の患者に関しては、病院で面会ができないため、できるだけ自宅に帰りたいとの希望が増えてきている。ターミナル期の患者には個別で指導し次に繋げるが、次の機関には電話が主になっている。
- ・オンライン面会は、準備ができておらず今後の課題。初診以外の外来診療は電話診療での受付が多くなっている。

地域包括支援センター：

- ・医療機関との連携については、病院での面会ができないため相談員とは電話連絡での情報確認を行っている。